

大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

※ 特集

大学図書館の現在と未来

九州大学における知の公共化の取り組み 吉田素文 I

大学図書館はどこへゆくのか

慶應義塾大学メディアセンターに見る現状と課題 岡本聖 6

大学図書館と二一世紀型スキル

武庫川女子大学の取り組み 川崎安子 II

図書館はなぜ“支援”するか

日本の図書館をとりまく世界 江上敏哲 16

※ 連載

初版本、ナンセンスなフェティシズム

鈴木光司著『ドロップ』 酒井道夫 表2

大学出版部ニュース 21



一般社団法人
大学出版部協会

THE
ASSOCIATION
OF
JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES

NO. 95
2013. 7
※ 夏

50
th
Anniversary

初版本、ナンセンスなフェティシズム

鈴木光司著

『ドロップ』

酒井道夫（二代目酒井九波堂）



ホルダーにセットしてみれば、やはりトイレットペーパーそのもの。2枚重ね30m巻き、100%再生紙使用。活字は水色。その後、翌年にかけて2、3が発売され、全3巻パックもある。筆者は当然購入し、未開封で保管している

あれから、もう四年も経っていたのだ。老齢者にとつてこれは半端な年月ではない。当時、あろうことか書店で妙なトイレットペーパー（以下TP、林製紙二〇〇九）が販売されているのを見つけて買い込んだのだつた。

二一〇円。包装紙の意匠がオドロオドロしい。マジ、TPそのものなんだろうとは思つたが、しかし一包だけでこの値段だし、名高い作家によるテキストが刷り込んであるらしいから、相当に手の込んだ仕掛けが仕込んであるんじゃないか？ 何か期待してしまうのではないか！

しかし、これを持ち帰つてトイレに持ち込んですぐさま開封するには、生来の書物フェチが邪魔をした。これつて一度ほどいたらそう簡単には巻き戻せまい。グスグスになったブーツをどう保管するのだ？ 以来、今日までの歲月、目の端に触れるところに転がしたまま放置してきた。

メディア史としては、卷子本かみすが冊子本さしに切り替わる局面は文明的に極めて重視されるころだ。作家はここに着目して、手の込んだ謎を仕掛けているに違いない、と期待をした。だから早く開封してみたいけど……モッタイナイ。この葛藤を重ねて、四年間に仕込んだ勝手な妄想は膨らむばかり。

だが待てよ、開封しないでもテキストに触れ得るとすれば、それはきつとネットで探すべきか？ 案の定、すでにあのキンドルにアップされていた（九九円）。で、早速ダウンロード。

うゝん。このTPを「卷子本」そのものと見立てて大げさな連想を築きあげる前に、まずはTPであることを忘れて勝手な期待を抱いていたようだ。つまり、TPはトイレットタイムを補完する際の補助材であることこそが第一義。用を足すときの束の間の慰みに、チラッと目をやればほのかなホラー感が味わえるではないか、というところが著者の狙う仕掛け。軽妙に「ピロリーなオサレ（尾籠なお洒落）」を盛り込むのが、その意図するところだったのだ。

一本取られました。

九州大学における知の公共化の取り組み

吉田素文
(九州大学附属図書館副館長)

はじめに

筆者は、去る平成二三年一月一八日に、福岡市で開催された大学出版部協会の二〇一一年度編集部会秋季研修会プログラムのひとつとして標題の講演を行った。この度、講演内容をもとに、九州大学の附属図書館および統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻の具体的取り組みと将来の方向性について、その後の展開まで含めた現状報告を試みたい。

取り組みの背景

まず、九州大学附属図書館の将来構想について紹介する。

1 大学図書館基準（昭和二七年制定、昭和五七年改定）が示す大学図書館の機能を第一の目標とする。

即ち、大学における教育研究の基盤施設として、学

術情報を収集・組織化・保管し、これを利用者の研究・教育・学習のための利用要求に対し効果的に提供することを目指す。

2 電子化資料の整備を進めることを第二の目標とする。即ち、紙媒体での学術情報の創造・発信とその世界規模での共有という新たな機能を充実し、さらに昨今の急激な電子化・ネットワーク化の動きに対応して、オンラインジャーナルへのアクセスを確保するという情報配信機能の整備を図る。

3 九州大学の新しい機能と組織に対応した大学図書館を構築・運営し、大学改革と活力ある大学づくりに積極的に寄与することを第三の目標とする。

以上、「九州大学附属図書館将来構想」一頁（平成一五年七月）から抜粋

第一の長期目標・理念は言わずもがなであるが、第二、

第三の長期目標・理念が設定されている背景を理解するためのキーワードとして、情報通信技術の発達に伴う学術情報の電子化、および大学院重点化（九州大学では平成二二年）と国立大学の法人化（平成一六年）を挙げておく。

また、大学図書館の今後の動向を見越すためには、政府の諮問機関における議論を踏まえることも重要である。ここで詳細を述べることは控えるが、冒頭に述べた講演では、科学技術・学術審議会の学術分科会（研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会）による「大学図書館の整備について（審議のまとめ）―変革する大学にあって求められる大学図書館像―」（平成二二年一二月）から、「大学図書館に求められる機能・役割」および「大学図書館職員に求められる資質・能力等」について紹介した。その後の議論については、「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」（平成二四年七月）を参照されたい。

具体的な取り組み

ライブラリーサイエンス専攻の設置 (<http://www.iis.kushu-u.ac.jp/iiss>) 九州大学は、人類・社会が抱える課題から科学を捉え直し、人材を養成するために設置した学際的大学院である統合新領域学府に、平成二三年四月に「ライブラリーサイエンス専攻」を新たに開講した。その背景は以下のようなものである。

問題解決のために、収集された情報を活用することによ

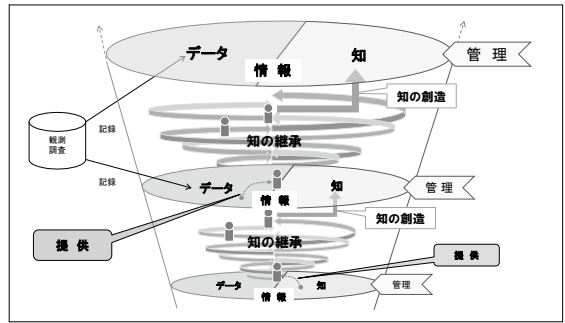


図 1

いうユーザーの要求が増大していくにも関わらず、最適な情報を評価・選別し提供を行うことが困難となり、電子媒体の文書に関する法制面・流通面でのさまざまな課題が顕著となっている。従って、情報の管理と提供の現場では、ユーザーの知的活動を支え、情報の管理と提供にあたる新たな能力を持つ人材が必要となっている。このように人材養成が絡み、かつ高度で複雑な社会的問題を解決するためには、学際的な教育研究機関を創設する必要がある。

九州大学は、教育研究に対する社会の幅広いニーズに応

り創造された知は、記録され、継承、利用されることにより、新たな知が創造される。この「知の創造・継承プロセス」における情報の管理と提供は、これを司る「ヒト」と「場」によって行われてきた（図1）。しかし、現在では急速な情報化社会の進展により、電子化された大量かつ流動的な情報が氾濫したため、「必要な情報を効率的に」、「いつでもどこでも」と

創業百年記念出版
【岩波講座】
日本の思想
 〈全八巻〉
 【編集委員】
 菊部直・黒住真
 佐藤弘夫・末木文美士
 日本における思想の蓄積
 とその転変を問い直す。
 A5判・上製函入【内容案内達星】
【第1回・第一巻】
「日本」と日本思想
 「日本」と「日本思想」の枠
 組を再検討。定価3990円
【第2回・第二巻】
場と器 思想の記録と伝達
 思想を記録し伝達させて
 きたものは何か。
 定価3990円
 【続刊】
 三 内と外 対外観と自己像の形成
 四 自然と人為 自然の姿容と人間の
 五 身と心 一人間像の転変
 六 秩序と規範 「国家」の
 七 儀礼と創造 美と芸術
 八 聖なるものへの 美と芸術の
 —躍動するカミとホトケ

【安丸良夫集全6巻】
戦後知と歴史学
 島 菌 進・成田龍一
 岩 崎 稔・若尾政希
 成田龍一解説
 初めて体系的に提示され
 る著者の戦後日本史学史
 論。 四六判・定価4620円

「紙上の教会」と日本近代
 —無教会キリスト教の歴史社会学—
 赤江達也
 思想史とメディア史の両
 面から立体的に論じる。
 四六判・定価2940円

近代農業思想史
 —21世紀の農業のために—
 祖 田 修
 農業・農学を学ぼうとす
 る人びと必携の書。
 四六判・定価2730円

岩波書店
 東京・千代田・一ツ橋
 【定価は消費税5%込み】
<http://www.iwanami.co.jp/>

えるため、複数の学問領域から集まった教員が連携して教育研究に取り組めるよう、独自の学府・研究院制度を採用している。一方、学内で情報の管理・提供を担う「ヒト」、「場」として、附属図書館は高度なサービス機能や電子リソースの整備、学びの場の提供として全国をリードしており、その付設記録資料館は、特色ある史資料を系統的に収集している。また、大学図書館は、大学史料の組織的集中的な保存、管理および提供を行っている。これらの情報管理・提供の「ヒト」と「場」は、前述の新たな人材養成、学問領域の開拓の場として利用可能である。

以上の背景から、まず、「ライブラリーサイエンス」という新たな学問領域を次のように設定した。「ライブラリーサイエンス」は、ユーザーの視点に立った情報の管理と提供を確保し、同時に「知の創造と継承」を支える新たな「場」（これを「ライブラリー」と呼ぶ）を科学するものである。情報の収集・活用により創造された知は、記録され、継承されてこそ、新たな知の創造へと展開することができ

供を行う人材である。第二に、次のようなユーザーの多様

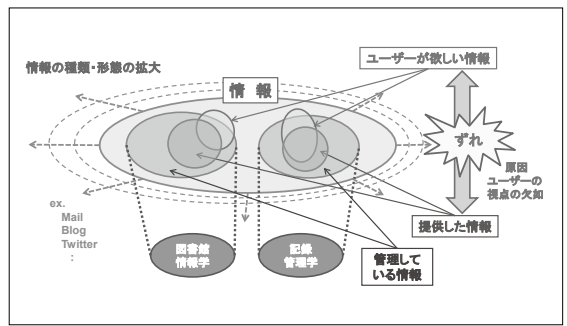


図 2

る。ライブラリー図書館という固定観念を超えて、図書文献資料、文書記録資料（アーカイブス資料）等の別なく、統合された方法論に基づき、情報管理・提供の新しいステージを開拓するといふものである。

次に、この「ライブラリーサイエンス」に基づく人材養成として以下三項目を設定した（図2）。

第一に、ユーザーのニーズと知の創造・継承プロジェクトを

な情報要求に対応できる人材である。すなわち、図書館情報学における内容に基づく情報の体系化と、記録管理学での生成・利用の文脈に基づく情報の体系化を統合的に活用したいという要求、情報科学的手法による内容に基づき情報を組織化したいという要求、そして、インターネット上の情報の膨大さと信頼性を考慮した利用に対応したいという要求などである。第三には、電子媒体に記録された情報を法制面や流通制度面で適切に対処できる専門職である。

以上から、ライブラリーサイエンス専攻の理念と目的として以下五項目を掲げ、開講した。

- 1 ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
- 2 図書館情報学と記録管理学を統合した一体教育
- 3 情報の管理・提供を実現するための、データエン지니어リングを含む情報通信技術の教育
- 4 電子媒体の情報も対象とした、情報法制の現状およびその哲学に関する教育と流通制度に関する教育
- 5 これからの情報の管理・提供のあり方、知の創造・継承活動を支える「場」の新たな機能などについて探求する能力を身につけさせる教育

その後、当時新入生だったライブラリーサイエンス専攻修士課程は、今春一学期が卒業し、それぞれ就職あるいは平成二五年に開講した同博士課程に進学している。

教材開発センターの設置 (<http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/>)

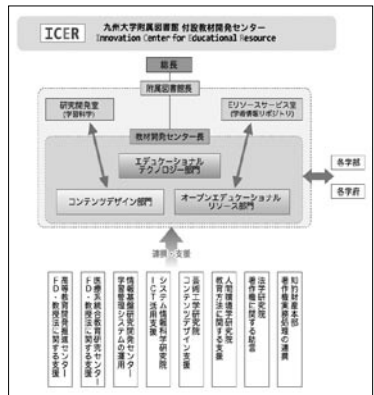


図 3

九州大学は、附属図書館の付設施設として、平成二三年四月に「教材開発センター」を新たに設置した(図3)。教材開発センターの任務は、①インスタラクショナルデザイ

ンに基づいた教材、教育方法を開発・適用し、協調型・学生主導型学習を推進することで、自律的な学習と実践力を育成する教育技術を普及し促進すること、②双方向型三次元マルチメディアやゲーム性を活用した携帯端末やデジタル放送等の新技術に対応する教材コンテンツの開発を通して、学習意欲を高めるコンテンツの作成技法や作成効率を高める作成ツールを提供すること、そして、③OCW、YouTubeなどを活用したオンデマンド学習の推進と、これら教育コンテンツ再利用のための著作権処理システムやSNSの活用を図ることで、学内外も含めた知の公共化と学びの共同体の醸成をリードすることである。

その後、兼任教員四名で始まった教材開発センターも、平成二四年度に教授職の専任教員が着任し、兼任教員やテクニカルスタッフもさらに充実し、活動が加速している。

九州大学学術情報リポジトリ (<https://qir.kyushu-u.ac.jp/>)

九州大学学術情報リポジトリは、学内で生産された知的生産物を電子的に保存し公開することを目的として設置された。文献投稿者として、九州大学に在籍する、または在籍したことのある教員及び大学院生が設定されており、研究成果のインパクト向上、恒久的保存、社会貢献・産学連携などが効果として期待されている。コンテンツはメタデータとともに、主にPDFの形でダウンロード、閲覧が可能なものが多いが、様々な理由で、メタデータのみ閲覧可能とし、詳細を非公開とするコンテンツもある。

九州大学附属図書館としては、九州大学学術情報リポジトリについて、出版社と競合したり、従来の出版モデルを破壊したりするようなものではなく、むしろ、連携することでお互いの強み・弱みを補いあえるのではないかと考えている。具体例としては、絶版図書を機関リポジトリで公開する、機関リポジトリで電子版を公開し印刷版を大学出版会からオンデマンドで発行する、冊子を大学出版会で、

機関リポジトリでWebコンテンツを公開する形の教科書を発行するなどが考えられる。また、大学出版会が機関リポジトリで公開する資料の選択、エンバゴの設定、著作権の処理を行い、図書館がメタデータの付与と電子ファイル化を行うなどの連携体制も考えられる。

おわりに

以上、当時のプレゼンテーションシヨンプファイルから可能な限りの文章化を試みた。読者にとって幾許かお役に立つことができれば幸いである。

最後に、この文章には大学の教職員にしか通じない用語が相当に交じっており、この雑誌の読者との理解のギャップを十分に埋めることができたとは思えない。それこそ、読み解くために、インターネットによる情報検索を強いてしまっているかもしれないことについて、何卒ご容赦願いたい。また、この原稿を筆者に依頼し当手を振り返らせてくださった、大学出版部協会に改めて感謝申し上げます。

新刊案内

大里浩秋・李廷江編
辛亥革命とアジア—— 神奈川大学との
辛亥二〇〇年シンポジウム報告集
入江 昭「現代世界史の中の辛亥革命」を始め、百年前に勃発した辛亥革命とアジアとの関係を再検証する35本の論考を収録。

フリードリヒ・シュレーゲル著／酒田健 訳・註解 菊判 三八四頁・八八〇円
『イェーナ大学講義』超越論的哲学
独自の思想世界を切り拓いていった初期ロマン主義の旗手シュレーゲルの『幻』の大学講義本邦初訳。稠密な註解・解説付き。

SGCIME(エヌ・ジー・シム)編 菊判 四二四頁・二四一五円
増補新版 現代経済の解説—— グローバル資本
「激動」の今を読み解く最良のテキスト。増補新版出来!!

執筆者 青才高志・河村哲一・吉崎徹也・鈴木 均・高橋晃臣・吉村信之・栗田康之・田中史郎・小林啓志・樋口 均・平田正樹・池上岳彦・植村高久
堀 芳枝・上村英明・高橋清貴編 B5判 二六〇頁・二九四〇円
学生のためのピース・ノート
歴史の分岐点に立つ若者のための平和学入門。

執筆者 堀 芳枝・上村英明・高橋清貴・谷本春男・内海愛子・李泳采
齊藤小百合・漆畑智輝・川島堅二・定松 文・日まゆみ・荒又美・岡坂井 誠

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
<http://www.ochanomizushobo.co.jp/>

大学図書館はどこへゆくのか——慶應義塾大学メディアセンターに見る現状と課題

岡本 聖

(慶應義塾大学三田メディアセンター)

はじめに

「慶應義塾大学メディアセンター中期計画 2012-2015」は、初代「中期計画 2006-2010」を引き継ぐ二代目の中期計画である (http://www.lib.keio.ac.jp/headquarter/midrange_plan.html)。大学図書館を取り巻く環境変化が激しさを増し、課題が複雑多岐に渡る状況の中で、メディアセンターの「使命」を明確に意識し、「将来像」を実現するための道筋として策定されたものである。

本稿では両中期計画の内容を紹介し・比較することで、近接過去と未来の大学図書館の状況を主に予算・決算とコスト面から見てみたいと思う。なおこの比較は、本学での公的な分析ではないことをお断りさせていただく。中堅図書館員による状況認識としてご理解いただければ幸いである。

中期計画 2006-2010

- A. 環境変化に対応した図書館サービスの実現
- B. メディアセンター職員の資質向上と組織の再編
- C. 施設の整備
- D. メディアセンターの経営面における改革

初代中期計画は四本の柱で構成された。B〜Dはひともの・かねであり、経営の三要素を集結して実現すべき図書館サービスのAに挙げられている。当時の重要課題は、「来館型と非来館型双方の図書館利用要求に応えることができるサービス基盤を構築すること」であった。代表的なものは、ポータルサイト構築、パスファインダー等の学習支援サービス、機関リポジトリ、次期図書館システム導入ならびに電子資源のリモートアクセス環境拡充などである。利用者の要望として顕在化し始めていた「非来館型の

あたらしい古代史！
日本古代の歴史 全6巻 刊行開始
 〔企業編集委員会〕
 佐々木恵介 各2940円
 佐々木恵介 各2940円

① 倭国のなりたち
 木下正史著 日本国・日本人とは？ 個性豊かな文化が育まれた。はじまりを描き出す。

「内容案内」送呈

日本人と墓の歴史がわかる！
事典 墓の考古学
 土生田純之編 縄文の墓・大名の霊廟・庶民の家墓…。総合的に墓を捉える事典。9975円

文化財学の
新地平 奈良文化財研究所編
 創立60周年を記念し、多岐にわたる分野の研究員が執筆する論文集。全83編。13650円

岡倉天心
思想と行動
 岡倉登志・岡本佳子・宮瀬交二著 彼の業績を再評価。天心研究に新知見を提示する。3675円

情報覇権と
帝国日本 I
 海底ケーブルと通信社の誕生
 有山輝雄著 西欧列強の「帝国の道具」。国際通信網に日本は食い込めるのか。4935円

環境の日本史 全5巻完結
 ① **自然利用と破壊**
 近現代と民俗 鳥越皓之編 人々はいかに自然を利用し破壊してきたか。現代社会が抱える環境問題にアプローチ。5040円

吉川弘文館
 〒113-0033 東京文京区本郷7-2-8
 電話03-3813-9151 / 価格5%税込

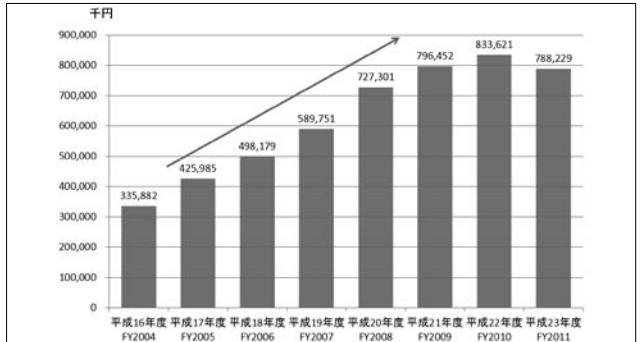


図1 電子媒体資料（電子ジャーナル、電子ブック、データベース）の契約額

「サービス」の拡充に注力していた。データベースや電子ジャーナル等の電子資源の有用性が、契約主体である図書館だけでなく利用者にも浸透し始めた時期で、それに呼応して電子資源の契約・購入が急速に高まっていた（図1）。電子資源の価格高騰化問題はすでに深刻であったが、それでもまだ非来館サービスの中心である電子資源拡充に比重があったように思われる。総図

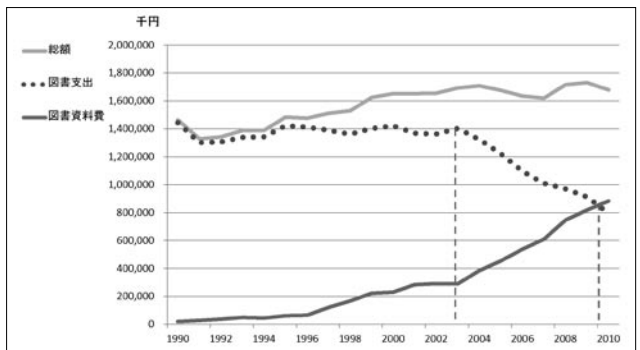


図2 資料購入決算額における図書支出・図書資料費の比率（全学）

書予算額が下降傾向にある中、電子資源契約を維持するための資金繰りに傾倒していた時期でもある。その資金繰りは年々悪化していたが、冊子体雑誌の契約解除によって捻出した予算により電子資源契約が保たれていた。その結果、図2のように二〇〇三年度を境に冊子体資料購入予算である図書支出が急速に下落し始め、二〇一〇年度には電子資源購入予算である図書資料費

が図書支出を逆転する。初代中期計画とほぼ期間を同一にするこの間、日本語の電子商品はほとんど増えておらず、決算額のパラダイムシフトは、電子ジャーナルを核とする研究用海外商品によって引き起こされたと言える。

中期計画 2012-2015

初代中期計画は、二〇〇九年に中間評価、二〇一一年に最終評価が出され、Webにて公開している (http://www.lib.keio.ac.jp/headquarter/midrange_plan_old.html)。その後の二代目中期計画でも以下のように柱は四本である。結果的に初代のA・Cが主に2に統合され、B・Dが3に統合されている。様々な課題への対応計画があがっており、本来各計画は相関関係があるのだが、今回は紙幅の都合もあり、新しく登場した1に着目してみたい。

1. 「紙と電子」による利用環境の構築

教育・研究・医療を支える「紙と電子」の適正な蔵書構築および確実な利用環境とサービスの提供

2. 「個性の尊重」と「協調」との両立

キャンパスの多様性およびメディアセンター全体としての協調を意識したサービス・運用の最適化

3. 環境変化に対応できる運営体制の確立

図書館経営の強化および人と組織の再編成

4. 学内外における幅広い貢献

教育・研究・医療活動に則した支援と学内外における

知の生産と応用への貢献

「紙と電子」による利用環境の構築

「紙と電子」のハイブリッド環境の重要性は、多くの大学図書館で認識されているが、今回本学では「紙と電子」の構築方針の見直しを具体項目として挙がっている。また3の項目においても、電子資源管理体制強化のための経営資源の配分見直しが挙げられており、リソースを電子資源に向ける内容が掲げられているのは大きな変化である。初代中期計画では、主に自然科学系図書館の対応として認識されていたが、人文社会科学系図書館でも同様の動きが顕著になってきている。

1-1 「紙と電子」によるコレクション構築方針の見直し

電子資源にかかるコストの増大、来館型から非来館型へのサービスの比重の変化に見合った、紙媒体資料の収集保存基準および電子資源の契約・購入方針を確立し、その基準・方針に沿ったコレクション構築を図る。

3-1 (4) 電子資源管理体制の強化に向けた経営資源配分の見直し

運営コストを見直すことで電子資源の管理・運営体制を強化し、非来館型利用の動向に適したサービス体制を整える。

過去一〇年間の電子資源の支払割合の増加、利用指標と

なるダウンロード数の増加、洋雑誌の受入人数減少は顕著であり、今後五年間も電子資源の割合は増えると予想されている。特に電子ジャーナルの導入と普及によって、非来館型のサービスは一層充実したが、複雑な契約業務・版元交渉、支払調整、また契約後の利用環境維持など多大なコストがかかっており、目下の課題である。

直接コストとしての図書予算の確保と見直しも中期計画の下支えとなる行動計画にあがっている。学習・研究に不可欠な資料は、電子資源を優先的に契約することや、選書方法の見直しによって、従来の「いずれ役に立つ・あらかじめ準備しておく選書(Just in case)」から「基本書以外は、ニーズや要求に応じる選書(Just in time)」へのシフトが起こりつつある。図書館システムの高度化により、貸出統計で利用状況が把握可能になると、よく利用される資料より、全く利用されない資料が相当な量で際立ってくる。若干思いついて述べたならば、図書館における図書購入コストは書籍代の問題だけではない側面がある。少し前の試算

気候変動を理学する

古気候学が変える地球環境観

多田隆治 過去の気候変動の「物証」を探し出し、動的な地球システムの本質に迫る。サイエンスカフェ発の名講義。¥2520

ポストクライン派の精神分析

クライン、ピオン、メルツァーにおける真実と美の問題

サンダース 今日的概念がいかに患者への洞察を深めるものとなりうるか。臨床記述(夢)を素材に解説。中川慎一郎監訳 ¥3780

心理学的自動症

人間行動の低次の諸形式に関する実験心理学試験

ジャネ フロイトと並ぶ精神医学の祖による名著。「無意識」を発見し臨床を心理学に結実させた基本文献。松本雅彦訳 ¥7350

漁業と震災

濱田武士 経済一辺倒の社会に「人のなりわい」をとり戻す。自然・集落・食文化を守るために。漁業経済学会賞受賞。¥3150

アーツアンドクラフツ運動

ネイラー ラスキン、モリスの影響下に興ったプレモダニズム期最大の工芸デザイン運動の全貌。川端康雄・菅靖子訳 ¥5040

ボスニア紛争報道

メディアの表象と翻訳行為

坪井睦子 偏向報道の陥穽を翻訳の視点から分析した問題提起の書。国際報道における翻訳の不可視性と政治性に挑む。¥6825

大隈重信関係文書

はとーまつ

「全集」未収録のものも含む福沢諭吉22通はじめ前島密、松方正義など198名808通。早稲田大学大学史資料センター編 ¥12600

東京文京本郷
5丁目32-21 **みすず書房**
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)
http://www.ms2.co.jp

ではあるが、受入・支払・書誌調達費も含めた目録作業に人件費として一冊あたり約九〇〇円かかる。さらに追加作業として請求記号付与・装備・配架・書庫管理等が必要であり、そこにも人件費が発生する。利用されない資料への追加コストとしては、資料の除籍があり、相当な負荷がかかる。また利用がないという理由で、本当にこの資料を処分してしまっているのかと悩むのも図書館員の性であり、学内の所蔵状況を調査するなど、資料処分にはかなりのコストがかかっている。このような状況に対する反省と打開の意味もあり、書籍代の領域を超えたところで、網羅的な収集から選択的な収集に変化しつつある。

またもう一つ重要な視点は、「紙と電子」で語られている「紙」が何を指しているかである。過去五年間の「紙」は「冊子体雑誌」であったが、急速な冊子体雑誌の契約解除が進んだ今、予算やコスト面で電子との対比で語られる「紙」は「図書」となる可能性が濃厚である。「電子ジャーナル(研究資料)」と冊子体雑誌(研究資料)から「電子

ジャーナル（研究資料）と図書（研究＋教育資料）」の構図に変化する。図書にかかる予算・人的コストを電子資源に向ける動きは今後加速すると思われる、電子的対応が遅れている教育資料には少なからぬしわ寄せが出ることも想像の範囲に入ってくる。

おわりに

電子資源維持コストや、非来館型サービスを拡充するための業務量は増加しているが、本学メディアセンターでは、過去一〇年間に専任スタッフ数が一〇%以上削減されており、人員と組織は年々縮小している。専任スタッフの削減がさらに激しい大学図書館もあるが、業務の増加状況から考えると本学においても人的リソースについては閉塞感がある。図書館サービスのさらなる向上を図るためには、専任スタッフ数の維持、ならびに資質の向上は必要不可欠であるが、かなり以前から叫ばれているフレーズであり、個人レベル・業務グループレベルで飛躍的に図書館を発展させることは困難な段階にきていると言わざるを得ないだろう。全体的な最適化に向けてリソースが再配分されることは避けられないと思われる。

また「電子ジャーナルと図書」の構図で語られる今後、和書に代表される教育的資料がどれくらい影響を受けるのかという問題が危惧される。まず直接的に影響を受けるのは洋書であるが、今後図書は和書も含めて選択的購入が

進むと思われる、そこにだけスポットライトをあてれば余剰資金が生まれる可能性がある。その資金はどこに流れるのか。予算が枯渇しているのは、研究資料としての電子ジャーナルであり、日本語コンテンツの必要性を強く感じながらも教育用の電子的商品が十分でない現状では、図書予算が海外版元に大量に流出し続ける事は否めない。図書館のリソース投下が研究を支える情報システムとコンテンツにさらにシフトする危険がある。

学問分野において程度の差はあるものの、デジタル学術情報流通における研究資料の中心は電子ジャーナルであるが、学習・教育資料はまだ手つかずと行ってよいだろう。デジタル学術情報環境下における良質な教育的資源の安定供給は大学における近接未来の要であり、これを担うのは国内の学術出版社と大学図書館ではないだろうか。

最後に自分の危機意識を薄めないために誇張を恐れず言え、図書館予算が頭打ちの今般、次に大手海外版元が狙っているのは図書館予算ではなく、研究費に代表される大学全体の予算ではないかと思っている。様々な海外版元が電子ジャーナルの契約モデルの変更を模索中であると聞く。Gold Open Access がビジネスモデルとして成り立ちつつある大手海外版元の状況を見るにつけ、図書館予算から大学全体予算への侵食に対する危機感も持ち合わせつつ、教育的電子資源の確保に向けた仕組みを近接未来のうち確立したいと思うのである。

大学図書館と二一世紀型スキル——武庫川女子大学の取り組み

川崎安子

(武庫川女子大学附属図書館)

はじめに

全国の図書館員の耳目を集めた佐賀県武雄市図書館の来館者数が、リニューアルオープン後一カ月で早くも十万人に達したというニュースが届いた。前年比五〇〇%と多くの人々が足を運んだ事実は、自館のさらなる利用増を図りたい図書館関係者にとって無視することができない一報だった。

昨夏訪問したポーランドのワルシャワ大学図書館は、地下にはボーリング場や飲食店、屋上には広大な庭園が広がっており、市民の憩いの場であると同時に市内の観光ルートの名所にもなっていた。欧州でも最初に日本学科(現・日本韓国学科)が設置され、図書館の中には日本から宮大工を呼び寄せて作った茶室「懷庵」がある。茶の湯の授業や、日波交流の拠点として活用されていると伺った。授業

を履修した学生は、最後には見事に茶を点てるようになる。館内の閲覧スペースはどこも満席で、静寂に包まれた空間はいかにも大学図書館という趣で居心地がよかった。

近年、国内の大学図書館ではラーニング・コモンズと称される場の設置がトレンドになっている。いわゆるアクティブ・ラーニングを展開するための場所として、図書館を再整備する大学が増えているのだ。

「二一世紀型スキル」の衝撃

ある記事^①を読んで衝撃を受けた。米国の研究者が「二〇一一年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの六五%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」と語ったというのだ。また、今まで存在しなかった職業に就くために、どの専門を選ぶのが有利かを大学生が考え始め、コミュニケーションやチームワークなど「転移可能な

「一般的能力」を重視するようになってきているという。そうなる、今後の大学においては「二十一世紀型スキル」(21st Century Skills)を醸成する学習環境づくりが求められているわけだ。

では具体的に「二十一世紀型スキル」とは何か？ 二〇〇三年頃に、米国教育省がこれからの社会で必要な能力は何かということを検討した結果出てきた言葉だ。⁽²⁾その後二〇一〇年に、国際団体である「二十一世紀型スキル効果測定プロジェクト」(Assessment & Teaching of 21st Century Skills: ATC21s)が「二十一世紀型スキルに必要な能力を規定し、以下四つのカテゴリーからなる十個のスキルに分類した。⁽³⁾

◎思考の方法 (Ways of Thinking)

- (一) 創造性と革新性
- (二) 批評的思考、問題解決、意思決定
- (三) 学習能力、メタ認知

◎仕事の方法 (Ways of Working)

- (四) コミュニケーション
- (五) コラボレーション (チームワーク)

◎仕事のツール (Tools for Working)

- (六) 情報リテラシー
- (七) ICT (情報通信技術) リテラシー

◎社会生活 (Living in the World)

- (八) 市民性 (地域および地球規模)

(九) 生活と職業

(十) 個人的責任および社会的責任 (文化的差異の認識および受容能力を含む)

これらを見るかぎり、今までの知識が無駄になるわけではなく、基本をしっかりと修得した上で自律的に学び、多様な考えに触れ、グループで対話しながら働き、働く道具としてICTを使いこなし、よき地球市民として生きる、そんな人間像が見てとれる。

筆者が担当する司書課程の授業「情報サービス演習」では、レファレンスツールの内容および特性について理解した上で情報サービスの実践的なスキルを修得し、公共図書館や学校図書館、大学図書館といった館種に応じた望ましい情報サービスのあり方について自分の考えを述べることができる、という到達目標を設定している。情報検索の実務的な演習も徹底して行うわけだが、より高次な信頼のおける情報を収集するための技法を学ぶことにより、たとえ司書として身を立てることがなかったとしても、実社会で役立つ情報活用能力がいかに重要であるかを伝えている。「大学を卒業しました」と言いながら、「CIN」を使ったことがない、先行研究の調べ方を知らない、自国の歴史文化について語れない、国際社会での出来事に関心がない、といった無知蒙昧がどれだけ恥ずべきことであるか。それを学生個々人の感性に訴えるように噛み砕いて伝えると、たちまち彼女たちの表情は真剣になる。

藤原書店

福島 FUKUSHIMA 土と生きる

大石芳野写真集

大石芳野 土といのちを奪われた人びとの怒り、苦悩、そして未来へのまなざし。小宮潤二解説 3990円

四十億年の私の「生命」(新版)

生命誌と内発的發展論

中村桂子・鶴見和子 鶴見「内発的發展論」、中村「生命誌」の格闘。「生命」から始まる思想。 2310円

京都環境学 宗教性とエコロジー

叢書(文化としての「環境日本学」)

早稲田環境塾編(代表=原剛) 伝統の地・京都から、「自然の中の人間」を平明に語りかける。 2100円

小説 横井小楠

小島英記 150年前、独自の「公共」という思想を軸に、大胆に日本の進路を指し示した人間・横井小楠を大胆に描く歴史小説。 3780円

竹山道雄と昭和の時代

平川祐弘 竹山が摸索し続けた、非西洋の国・日本の近代のとるべき道とは何だったのか、真の自由主義者、初の評伝。 5880円

岡本太郎の仮面

貝瀬千里 「僕の絵は仮面」と断言した岡本の核心。「素顔」幻想をぶっ飛ばせ！ 気鋭による野心作。 第5回河上肇賞奨励賞 3780円

欲望する機械

ゾラの「ルーゴン=マッカーブル叢書」

寺田光徳 フロイトに先立ち、より深く、人間存在の根底の「欲望」を描いてみせた文豪ゾラを挾る。 4830円

月刊機 66巻32頁 4月号 No.253
浜田宏一/渡辺京二/
鈴木道彦/B・ストラ
ノZ・ヴェイガン/古
庄弘枝/坂本直充/三木健/山崎陽子
加藤晴久/粕谷一希/一海知義ほか
年間購読料2000円(送料込) ◎見本
誌・ブックガイド呈 *表示価格税込

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL03-5272-0301
ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

この二一世紀型スキルは、二〇一五年のPIISA調査から「協調型問題解決能力」として新たに追加測定されることになった。しかも、すべての調査がデジタルで行われる予定だという。大学図書館を含めた学術情報基盤の整備充実が喫緊の課題になっている。

「読活プロジェクト『Lavyの扉』」の取り組み

武庫川女子大学は学生数約一万名、女子大学としては国内で最大の総合大学だ。今年で創立七十四周年を迎える。二〇一一年には「読活プロジェクト『Lavyの扉』」を発足

させた。Lavyというのは、本学のキャラクターの黒ウサギだ。理事長の直轄事業として学生部、教務部、法人室、情報システム室、広報室、附属中高部と協働した部署横断型の全学プロジェクトとなっている。目指すのは「活字に強い女性の育成」だ。本を読むという経験を通じて多くのことを学び、その体験を仲間と共有することで、また新たな扉を開いていく、あたかも不思議の国のアリスがウサギ

を追いかけて様々な体験をしたように、読書から得られる知的発見を表現して「読活」と命名した。就活・婚活・読活と語呂もよい。これまでに、「武庫女ビブリオバトル」の開催や、授業時間を使った「女流人気作家を読む」、「現代女性作家コーナー」の設置、「貸出スタンプリ」などの活動を展開してきた。何がきっかけになるかわからないので、多種多様なプログラムを創出している。その効果が少しずつではあるが表れてきた。ここ数年入館者数の減少に頭を痛めていたのがようやく下げ止まり、年間の貸出冊数は前年比一五%増を達成することができたのだ。

他方、読活プロジェクトの評価指標として、全学生を対象にした「読書に関わるアンケート調査」を実施している。入学したばかりの一年生が、四年後の卒業時にどう変化しているかを見るためだ。もちろん、学生の読書傾向を把握する目的もあるため、毎日新聞社が毎年行っている「読書世論調査」を参考に設問している。初回の調査結果は、全国平均値と概ね同じような傾向が見られた。まず、読書習

慣の有無の二極化が激しい。好んで読むジャンルは圧倒的に日本の小説が多く、読書に長時間費やすというよりは浅く、娯楽のひとつとして捉えている者が多い。図書館利用者の満足度は全体的に高い一方、ほとんど利用しない学生も一定数見られる。SNSの積極的活用は少ないが、全国平均と比較するとインターネットを利用する時間が際立って長いことなどが特徴として表れていた。

本をよく読む学生は、文章を書かせても話をさせても上手い。この力を、全学生につけさせるのが大学図書館の使命だ。

大学図書館職員に求められる資質とは？

二〇一〇年十二月に文部科学省から「大学図書館の整備について（審議のまとめ）―変革する大学にあって求められる大学図書館像―」が公開され、図書館員による学習支援および教育活動への直接の関与が大学図書館に求められる機能・役割のひとつであると言及された。そして、「大学改革実行プラン」（二〇一二年六月）をふまえた、中央教育審議会の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて―生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ―（答申）」（二〇一二年八月）では、将来の予測が困難なこの時代に、我々大学人がなすべき改革サイクルの構築の必要性が示されている。さらに、学術情報基盤作業部会から「学修環境充実のための学術情報基盤の整備につ

いて（論点ペーパー）」（二〇一二年十月）が出された。それには、アクティブ・ラーニングのための場所として図書館内にスペースを確保するだけにとどまらず、いかにして利活用を促進させるかが重要であると説いている。おそらく、今後求められる大学図書館員像は確実に変化していくだろう。

武庫川女子大学附属図書館には、図書館長以下専任職員が七名、うち司書が六名、そして司書資格を有した委託職員が二十一名いる。二〇〇三年に目録・装備業務を、翌年から閲覧業務を委託した。導入当初は混乱が見られたが、八年目を迎えて現場はかなり充実してきたように思える。昨年度には大学・学生の満足度向上をねらい、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を西日本圏ではじめて取得した。

図書館を運営するにあたり、大学の教育理念や教育目標の実現を目指してアクションプランを策定するわけだが、現場を支えるスタッフの協力は不可欠である。どれだけ施設を整えても、スタッフが成長しなければ意味がない。ISO9001では、数百におよぶスキル要件に対して確認結果が記録され、各人が七十点以上のレベルを目指す。マニュアルだけではなく作業工程表として仕事のやり方が文書化されるので、新人の早期育成や技術伝承に転用が可能だ。業務の流れが明確になり、無駄の発見とクレームの原因が見えてくる。おのずと組織の方針が徹底され、スタッフの

仕事に対する役割分担と力量が明確になり、モチベーションが醸成されてくる。ひと口に「司書」といっても多様な専門性があるので、適材適所はかなり重視している。この取り組みによって、明らかにスピードとフレキシビリティが備わってきた。予測困難な時代に、いつまでも固定観念に縛られ立ち往生しているようでは、有為な学生を育てることなどできるわけがない。ロールモデルとなるようなスタッフの育成に、今後も継続して注力したい。

まとめとして

初等中等教育から高等教育まで連続と続く「学び」は、何も大学を卒業すれば終わりというものではない。嬉しいことに、社会人になっても母校の図書館へ足を運んでくれる卒業生が大勢いる。いくつになっても学びたいと思ったときに成長の始まりだ。終生学び続けることの楽しさと喜びを感じてもらえる、図書館へ足を運ぶと元気になる、そんな学生の一生涯をサポートできる図書館づくりを目指

したいと強く思う。

(1) 山内祐平「今は存在しない職業への準備——『二世紀型スキル』情報化によって生まれる『新しい職業』に適した『新しい教育』」(オンライン) <<http://pc.nikkeibp.co.jp/article/column/20120508/1048402/>> (参照2013-05-19)

(2) 清水康敬「二世紀型スキルと教育の情報化」『視聴覚教育』六五巻一号(二〇一一年)

(3) 野間俊彦「二世紀型スキル」の教育とその課題」(オンライン) <<http://pc.nikkeibp.co.jp/article/column/20120730/1057843/>> (参照2013-05-19)

※ 原文は「ATC21s」のウェブサイトから見る事が可能
<<http://atc21s.org/>> (参照2013-05-19)

(4) 三宅なほみ「二世紀型スキル」は世界標準の力」(オンライン) <<http://www.disc.co.jp/uploads/2012/03/2012.1.10miryakeshi-jinzai.pdf>> (参照2013-05-19)

沖縄大学 地域研究所叢書

尖閣諸島と沖縄

時代に翻弄される島の歴史と自然

国有化、中国公船の常駐、日台漁業協定締結……。国家の駆け引きに縛られずに沖縄が目指す道とは？ 琉球、中国、日本は歴史的にどのように交流していたのか？ 尖閣周辺海域で行われていた戦前・戦後の漁業は？ 絶滅の危機にあるアホウドリはいま？ 3回の土曜教養講座と、石垣市で開催

された移動市民大学の全記録

定価 2415円

琉球諸語の復興

奄美語・国頭語・沖縄語・宮古語・八重山語・与那国語

琉球諸語は方言ではなく独立した言語(2009年にユネスコが認定)しかし、共通語(標準語)中心の言語政策のなかでこれらの言語は死滅の危機にあるとされている。琉球民謡の大御所といわれる4人の唄い手が沖縄大学土曜教養講座に勢揃い。島々の言語で熱いトークと唄三線独演を披露。

DVD
琉球の島々の唄者たち
120分付き

定価 2940円

芙蓉書房出版

113-0033 東京都文京区本郷 3-3-13
TEL 03-3813-4466
FAX 03-3813-4615
www.fuyoshobo.co.jp

図書館はなぜ「支援」するか——日本の図書館をとりまく世界

江上敏哲 (国際日本文化研究センター図書館)

デジタル不足と海外の日本研究

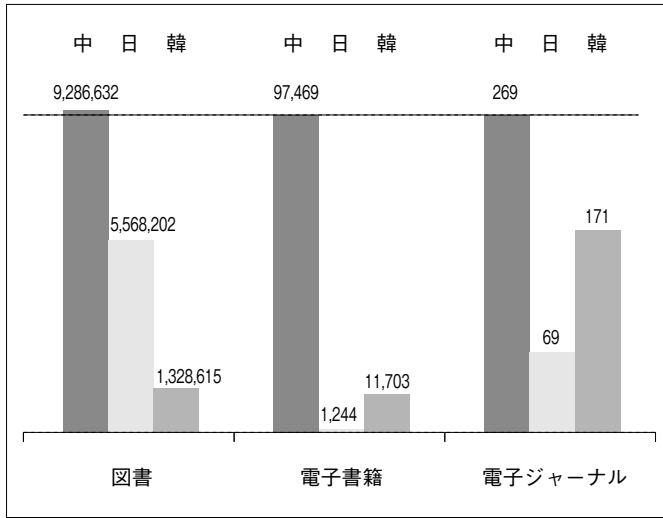
今年二月、東京の国際文化会館において「日本専門家ワークショップ 二〇一三・専門家会議」が開かれました。これは海外の日本専門家（日本研究を専門とする研究者・ライブラリアン等）やその支援をする日本側の専門家による会議です。北米、ヨーロッパ、オーストラリア、中国などから専門家が集まり、各国・地域での日本研究の現状・課題が報告・議論されました。中でも白熱したのが、日本語図書・資料のデジタル化が進まない、e-resource へのアクセスが改善されない、という話題です。

海外には、日本について専門に研究する研究者や、日本と関わる職業に就く専門家、日本に興味を持ち大学などで学ぶ学生などがいます。彼ら／彼女らが日本に関する研究成果その他のアウトプットを発信することで、世界におけ

る日本理解が深められていきます。その元になるのが日本の図書・資料、インターネットを介してアクセスされるさまざまな日本情報です。国を越えての日本資料・情報へのアクセスには、さまざまな困難や障壁が伴います。従来型の紙冊子や資料現物の探索・入手は、それなりに時間・金銭に余裕のある人や充分な「日本リテラシー」（日本語の資料・情報を自力で探索・入手する能力）を持った一部の専門家でなければ難しいでしょう。その敷居を低くしてくれるのが、短時間で容易に検索・入手できるデジタル化・オンライン化された資料・情報ではないでしょうか。

しかし海外からのアクセスが求められている日本製 e-resource（電子書籍・電子ジャーナル・データベースなど）が、深刻と言えるほど不足している、という問題があります。

図は、北米にある東アジア図書館（中国・日本・韓国各



各グラフとも左から中国語・日本語・韓国語の順。(Council on East Asian Libraries Statistics. <http://libku.edu/ceal/stat/>. (53館対象) から作成し、中国語を基準にサイズを揃えたもの。ただし、数値の記載のないものは0としてカウントした。またプリンストン大学は桁数の極端に異なる数値が記載されていたため除いた。)

図 北米・東アジア図書館での所蔵数 (2010)

言語の資料を扱う図書館) の図書・電子書籍・電子ジャーナルの所蔵数・契約タイトル数です。紙の図書に比べ、日本の電子書籍・電子ジャーナルのタイトル数が中国語・韓国語に遠く及ばない、という現状がわかります。現在、世界の学術研究・教育では、人文系の学問であっても e-resource・デジタル環境の整備が進んでいます。電

電子書籍の貸出・閲覧は当然のこと、講義に必要な図書・文献を図書館自らが「自炊」したり、注文に応じてPDFをメールで送ったりもします。英語等の西洋言語に限らず、図のように中国・韓国の e-resource 整備も順調です。数量だけでなく、契約しやすいプランを用意するなど、中国・韓国の売り込みはとても積極的だそうです。

一方で、海外の日本研究者・ライブラリアンと話をすると、日本製 e-resource の少なさを嘆かれることがたびたびあります。また、日本側が海外からのアクセスに消極的で、売ってくれない」という問題もあります。想定外の契約に対応できない、コストがかかるため受け付けられない、高額な料金プランしか用意されない、などです。裕福な国・大学にしか日本製 e-resource が普及できないようでは、世界の日本理解は深まり難く、長期的に見れば日本にとってもマイナスでしょう。海外・国内のライブラリアン・代理店などによる長期の努力で契約が成就した例もあります。が、それでも上の図のように、欧米・中韓等とのデジタル環境の格差は依然深刻なままです。

しかし、こういった日本製 e-resource の数の少なさを、不便さは海外特有の課題ではなく、我々日本の司書やユーザこそが日々痛感している問題のほうです。整備の遅れは、日本の大学・図書館やユーザが要望・主張の声を切実にあげていないことにも原因があるのではないのでしょうか。これは海外のユーザ支援以上に、日本国内の問題です。当事

者である我々日本の図書館・ユーザこそが積極的に働きかけるべきかと思えます。

資料・情報へのアクセスのために

このような支援・働きかけが必要なのは、何もe-resourceやデジタル環境に限った話ではありません。冒頭の会議では、資料への従来型のアナログなアクセスについても、その不便さが指摘されました。例えば、実際に来日して大学図書館を利用する際に、「紹介状」の持参が厳しく求められる。図書の貸し借りを依頼したくても、どの図書館がどんな手続きで受け付けてくれるのがわかりにくい、などの不満の声です。これらについては、我々日本の図書館がその声を真摯に受け止め、改善に努めるべきでしょう。

アクセスの改善をもって支援すべき相手は、海外のユーザだけではなくあります。今年三月、『カレントアウェアネス・ポータル』（国立国会図書館が発信する図書館・学術関連情報サイト）に「若手研究者問題と大学図書館界——問題提起のために」(<http://current.nd.go.jp/cal190>)と題する記事が掲載されました。博士課程を出た若手研究者は、専任等の職を得るまで一時的に大学の所属から外れてしまう例が多いのですが、その間、研究に不可欠な大学図書館の資料・サービスに満足にアクセスできなくなってしまう、という問題があります。本記事の指摘は若手研究者が中心でしたが、この問題は大学に所属しない専門家（専門機関・

官公庁・企業等）にもあてはまるでしょう。

もちろんどの大学・図書館も人員・予算は厳しく、また規則等の制限や運営方針の違いがあります。しかし、大学・図書館が資料・学術資源を持ち、それらを活用して何かしらの成果を産み出したというユーザがいるのであれば、諸々の現実を踏まえた上でなお、改善に努め応えようとする姿勢を持つべきだと、私は考えます。そしてそれは、そもそも大学・図書館は何のために学生・研究者、あるいはその他の人びとに対して「支援」——学習支援・研究支援を行なっているのか、につながるのではないのでしょうか。

「支援」とは何か、何のためか

再度、海外からの日本資料へのアクセスの問題に戻ります。

日本資料へのアクセスを求めるのは、一部の日本研究者・専門家だけに限りません。むしろ数の面では、日本リテラシー^①の低い学生・一般の方が大半でしょう。また、近年は学際的・国際的な研究が増えています。特定のトピック、例えば宗教やジェンダー・貿易・美術などをテーマにしてアジアや環太平洋地域全体を扱い、その中で日本^②も対象の一部となることがあります。そのような他地域・他分野を専門とする研究者は、日本リテラシー^③を持つことなく日本資料へのアクセスを求めることとなります。

先述のように欧米・中韓の豊富なe-resourceを横断的

に使っている中で、日本資料を扱おうとした途端アクセスできなくなる。そうなったときに、*「日本リテラシー」*のない専門外の研究者、これからの日本理解を支える若い学生に、自らデジタル格差を乗り越えて自力で資料にアクセスしてくれることを期待するのは、厳しいでしょう。

昨今、日本研究や日本語教育の縮小・統廃合など、欧米における日本研究の退潮傾向が懸念されています。背景には日本の経済的低迷や存在感の低下などがあります。中国をはじめ、アジア・中東ほか世界各国の台頭・発展に押され気味で、場合によっては、日本を研究すること、自体が低く評価されてしまうという事態も起こっています。この傾向と、日本資料・日本情報へのアクセスの障壁とは決して無関係ではない、と私は考えます。

アクセスされない日本。それは「ニーズがないから、アクセスされない」というだけでなく、むしろ「アクセスする余地がないところに、ニーズはうまれない」のではないのでしょうか。ニーズがうまれないならば、その不利益は日本自身にかえってきます。日本はもはや、黙っていても自力でアクセスしてもらえらるほどの存在感を世界に示せているとは言い難い状況にあります。求められなくても売り込んでいくか、少なくとも目に見えるところへ情報のメインストリームに自らつながっていく必要があるでしょう。

それを踏まえた上で「海外からの日本資料へのアクセス支援」ということを考えたとき、*「支援」*とはただ相手の

ため、誰かを助けるためだけに行なうのではない、と言えます。*「支援」*を行なうのは、最終的には自分自身のためではないでしょうか。

図書館がつなぐ世界、つくる未来

「自分自身のため」と言うのと、何か具体的な利益に直結することを期待しているように聞こえるかもしれません。「自分を含めたこの社会のため」と言ったほうがよいでしょうか。我々の社会や世界・人類がこうであってほしい、こう変わってほしい。その、自分が望む未来の実現に向けて、相手を支援する、必要なものを整備していく。

中でも我々、私の場合では大学・研究図書館とその業界に属する司書として行なうべき支援は何か。資料・情報、文化資源・学術資源と呼ばれるものを確保し、必要とする人に必要とされる資料・情報をつなげる、効率的・効果的なアクセスを可能にすることです。そしてそのような支援を行なうのは何故か。我々の社会が何かしらの未来をつくらうとする際に、人がこれまで産み出した知恵・思想や見出した知識を、可能な限り共有し、それらを堅実に踏まえることで、次の一步を選び、踏み出す。そういう世界であってほしい、そういう姿勢をもって未来をつくる人類であってほしい。司書として、少なくとも私は、そのような願いのもとに学習支援・研究支援というものを職業として行なっています。

自分が望む未来のための支援は、大学・図書館に限らず、公的機関か民間か学術教育か他業種かにかかわらず、どの社会・世界に属する者にとっても同様でしょう。先日ある空港で見た、航空関連業者のポスターに「自分たちの役目は世界から『行けない場所』をなくすことだ」という趣旨のことが書いてありましたが、想いは同じだと思います。

e-resource や研究のデジタル環境整備がいま必要だというのも、それが決して『最新』で『イマドキ』だからではなく、人と資料・情報をつなげるのに有効だからです。資料や環境のデジタル化は、研究・学習のあり方やユーザのニーズを大きく変えていきます。当然、図書館の支援のあり方や優先も変わっていくでしょう。それは単に目の前のユーザや資料の変化に右往左往するという意味ではなく、世界全体を広く見通し、ユーザと資料・知恵・知識・情報との位置関係を見極めた上で、どこに何が必要か、つなげていけばいいのか、場合によっては自ら情報編纂・情報発信していくべきかを、柔軟に判断していく。それが専門家としての責務だろうと思います。

逆に言えば、有効につながらないかたちでの e-resource やデジタル環境、情報発信のあり方は、意味を持ちません。紙にしろデジタルにしろ、資料・情報を提供する側が自身の都合や思い込みのみにしたがって一方的に流していくだけで、受け取る側のニーズや事情を斟酌していないのであれば、両者がつながらない、『ひきこもり型』の情報発信

でしかないということになってしまいます。海外の専門家からは、デジタル化した古典籍画像がネットに散在していて探せない、ニーズの有無を無視して手近な論文からオープンアクセス化されている、などの指摘も聞かれます。支援や情報発信は、そうすることになっているから／いないから、自分が一方的にそうしたいから、という問題ではないはず。不特定多数の人に周知させたい資料・情報であれば、多くのユーザが目にするであろう情報のメインストリーム上にそれをつなげる。特定のニーズや条件を持った人につなげたい資料・情報なら、そのユーザの現状や環境を個別に理解して、そこから逆算する。そのために、つなげようとするユーザと資料・情報、それらをとりまく世界を理解するための努力が、常に必要ではないでしょうか。

以上、主に図書館で司書として務める者の視点から私見を述べましたが、本稿は大学出版に関係する方が多く目にする場所に掲載されると聞いています。本稿の「図書館」の部分も適宜「出版界」等に置き換えて読み返していただいても、私見にさほど変わりはないかと思えます。

大学出版部ニュース

●大学出版部協会の新体制が発足

二〇一三年度定時社員総会が五月三十一日神田・学士会館で開催された。二〇一二年度事業報告・決算報告及び二〇一三年度事業計画・予算承認などのほか、理事・監事らの交替役員も選任された。

理事長は、山口雅己氏の退任を受け、新理事長に黒田拓也氏（東京大学出版会）が選任された。退任した三浦義博事務局長の後任は笹岡五郎氏（専修大学出版局）が就任、他に監事なども入れ代り、フレッシュな新体制がスタートした。

●創立五十周年記念「講演会」、「感謝の会」開催

総会終了後、一九六三年六月に設立された当協会の五十周年を祝賀して、記念講演会（講師は名古屋外国語大学長・前東京外国語大学長 亀山郁夫先生）「知と生命の大地を耕す―大学出版会のミッションと《教養》の未来」が催された。グローバル化に屹立する深刻な壁、音楽・メディア・本という希望、教養教育の課題など、大学出版会を自ら立ち上げた亀山先生の縦横に広がる話題が満場を

魅了した。午後六時からは二百名近い招待者、協会OB・関係者などが参会して「感謝の会」が始まった。新旧理事長挨拶のあと、日本書籍出版協会理事長相賀昌弘氏と紀伊國屋書店社長高井昌史氏から祝辞を賜り、宴が進んだ。

八大学出版会と二二学術団体から出版し、三二大学出版会を擁する一般社団法人へ成長した協会の五十周年の節目に、感慨溢れるものがあり、賑やかなひと時が過ぎた。中締め挨拶では、協会が新たな五十年を踏み出すのだとの発言もあって、気の引き締まる思いであった。

●創立五十周年記念「連続シンポジウム」始まる

「新しい社会を拓く大学の力」と銘打った全4回の記念イベントである。第一回（六月一日）「領土という病―危機のなかの日本」。第二回（七月二七日）「知を磨く西洋古典」。第三回（九月二八日）「防災と復興の知―三・一一以後を生きる」。第四回（二〇月二六日）「心の多様性―脳は世界をいかに捉えているか」会場は何れも品川・京都大学東京オフィス。

北海道大学出版会

▼押野武志・諸岡卓真編著『日本探偵小説を読む―偏光と挑発のミス터리史』四六判・二五二〇円（江戸川乱歩をはじめ、松本清張、京極夏彦など、各時代を代表する作家の作品を縦横無尽に読み解く。

▼櫻井義秀・大畑昇編著『大学のカルト対策』四六判・二五二〇円（カルト勧誘の実態を紹介し、被害学生への支援、カルト対策の社会的・法的根拠を論ずる。

▼森下嘉之著『近代チエコ住宅社会史―新国家の形成と社会構想』（A5判・七五六〇円）チエコスロヴァキアの形成と社会変容を住宅問題を通して考察する。

▼玄武岩著『コリアン・ネットワーク―メディア・移動の歴史と空間』（A5判・六八二五円）コリアンの移動と定住、アイデンティティの諸相をあぶりだす。

▼徳永昌弘著『20世紀ロシアの開発と環境―「バイカル問題」の政治経済学的分析』（A5判・六三〇〇円）公害・環境問題の動態を理論的・実証的に解明。

▼加藤重広著『日本語統語特性論』（A5判・六三〇〇円）日本語の統語的な特性を言語類型論・通言語学から分析。（北海道大学大学院文学研究科研究叢書22）

弘前大学出版会

▼『太宰治自筆ノート複製セット』弘前大学附属図書館編（A5変型判・英語一六八頁、修身一二八頁、解説八頁・定価一二六〇〇円）太宰および太宰文学の原点を知る資料。「英語」「修身」のノート複製と附属図書館長による解説のセット。なお、取扱いは弘前大学生協のみ。



▼『太宰へのまなざし―文学・語学・教育―』弘前大学教育学部国語講座編（四六判・二八一頁・定価一六八〇円）太宰の文学に対し、国語講座に所属する教員が、それぞれの専門の立場から検討を行った論集である。

▼『日英対訳津軽の藍 Tsugaru Indigo』北原晴男監修（A5判・一五九頁・定価一八九〇円）「藍と藍染」「津軽藍の歴史」の二部構成で、藍染だけではない、藍の持つ多様な世界を語る。

東北大学出版会

▼叢書 今を生きる 東日本大震災から明日へ！ 復興と再生への提言』1 人間として』2 教育と文化』3 法と経済』4 医療と福祉』5 自然と科学』（全五巻・A5判・各二〇〇円）

▼『数学の苦手な人が書いた寄り道統計学―不確実な世界を生きる知恵―』鈴木宏哉・小林敬子著（四六判・二三一〇円）

▼『弓聖 阿波研造』池沢幹彦著（四六判・二六二五円）

▼『酵素資源余話 酵素のおもしろさを尋ねて』一島英治著（四六判・一五七五円）

●東北大学出版会若手研究者出版助成採択作品

▼『鉄の科学史―科学と産業のあゆみ―』初山高仁著（A5判・三一五〇円）

▼『タジク語文法便覧』井土慎二著（A5判・二一〇〇円）

▼『子どもの暮らす施設の環境―これからの児童養護のかたち―』石垣文著（A5判・三一五〇円）

▼『贈答の近代―人類学からみた贈与交換と日本社会―』山口睦著（A5判・三六七五円）

流通経済大学出版会

▼中山秀登著『民法の流れ図―総則―』（B5判・二六〇頁・一八〇六円）

市民の、民法への感覚は、つぎのようなものだろう。民法は、むずかしく退屈なものである。民法は、むずかしく退屈なものが分りにくい。民法全体の構成がつかみにくい。本書は、以上の市民の感覚を、すべて洗い流す。

民法の全体と部分を、高校数学のコンピュータで習う、流れ図をもちいて、解説。さらに、適宜、注をつけて、図解。図解は、著者の造語にいう「時の流れ図」を多用した。「時の流れ図」では、左から右へ、⇒をもちいて、時の流れを表した。権利・義務の主体〓人を〇、権利・義務の客体〓物・事を□、権利の主体と客体をむすぶのが点線、義務の主体と客体をむすぶのが点線とした。登記・引渡などの対抗要件を▽で表した。「時の流れ図」は、マンガあるいはプロ野球ニュースを見る感覚で読めるだろう。

本書は、沼正也博士の、民法は誰にでも分かるようにしなければならぬ、という教えを実践した。冒頭の論文「民法によるガバナンス」のなかで、民法についての著者の学びの歴史を述べた。

聖学院大学出版会

▼平山正実編著 臨床死生学研究叢書4
『臨床現場からみた生と死の諸相』(A5
判上製・四二〇〇円)

本書は、死の不安や悲しみの中にある人々の心理的苦悩や宗教的な問題など、臨床現場において生ずる生と死をめぐるさまざまな問題をとりあげる。医療、看護、心理など多職種が、自らの知識、経験、研究に基づいて、死と生の問題を考察する論文を収めている。また、東日本大震災で教え子を亡くした教員とその教え子の遺族が文通することによって、双方が「グリーンケア」とは何かということを学び合った心の軌跡を描いた論文も所収。

▼窪寺俊之編著 スピリチュアルケアを学ぶ3 『スピリチュアルコミュニケーション——生きる希望と尊厳を支える』(A5判並製・二二一〇円)

心理学や精神医学領域を超えた魂のケアを学ぶシリーズの第3巻。基本となる人間観・死生観やコミュニケーションのあり方を学ぶ。本書の副題「生きる希望と尊厳を支える」は、スピリチュアルケアの臨床現場での大きな課題である。

聖徳大学出版会

▼川並知子・広瀬知里共著 『子どもと保育者のためのおりがみアイデア』(B5判・一二八頁・一五七五円) 幼児が無理なく折り紙遊びを楽しめる方法や「折る」だけで、簡単に折り紙を三等分や五分・六等分にできる技法も取り上げた。新たな折り紙の魅力に気づける一冊。



▼川並知子著 『さくら紙あそび』(B5判・六四頁・六八二円) 「さくら紙」(おはな紙)の遊び方別に構成し、作品の活用例もふんだんに掲載。親子での紙遊びから保育現場での活用など、ぜひ手本として欲しい。



麗澤大学出版会

▼K・ライアン、中山理他編著／中山理他監訳 『グローバル時代の幸福と社会的責任——日本のモラル、アメリカのモラル』(四六判・三五六頁・一八九〇円)

「幸福」実現のために、最も重要なこととして九つの徳——勇氣・正義・慈愛・感謝・知恵・内省・尊敬・責任・節制——を挙げ、日米の執筆者が東西文化それぞれの視点から論じ、「幸福」実現への道を物語や古典に即してやさしく説く。

▼麗澤大学道徳科学教育センター監修 『高校生のための道徳教科書』(A5判変型・一四四頁・八四〇円)。本書は、高校生対象の「道徳」の副読本である。現代社会におけるモラルとは何かを共に考え話し合えるように、生徒の共感力・想像力・洞察力などを刺激するさまざまなナラティブ(物語)と「質問」を中心に編集。本文二色刷。



慶應義塾大学出版会

▼井庭崇＋井庭研究室著『プレゼンター ション・パターン——創造を誘発する表現のヒント』（A5判・一六〇頁・一四七〇円）「パターン・ランゲージ」の考え方に基づき、聴き手の創造を誘発するプレゼンの秘訣三四パターンを抽出。愛らしいキャラクターが各パターンのポイントを明快に解説する。

▼日向清人著『ギナーのための経済英語——経済・金融・証券・会計の基本用例320』（四六判・二六四頁・二一〇〇円）ビジネスパーソンが業務で必要な情報を英語で理解するために役立つ表現集。ひととおり目を通せば、英字新聞の金融面や企業の英文業績報告書を難なく読めるレベルに到達することが可能。

▼川澄哲夫翻訳・註『ライマン・ホームズの航海日誌——ジョン万次郎を救った捕鯨船の記録』（B5判変型・四〇〇頁・一五七五〇円）一八四一年、漂流中のジョン万次郎ら一行を救助したアメリカ捕鯨船の若き水夫、ライマン・ホームズが記した肉筆の日誌を完全翻刻し英和対訳版として刊行。カラー口絵や捕鯨船の詳細な図・解説なども収録した愛蔵版。

ケンブリッジ大学出版局

▼The New Cambridge History of American Foreign Relations 4 Volume Set (4 Hardback books 9781107031838 USD 180,000)

『新ケンブリッジ版 アメリカ外交史』の四巻セットです。

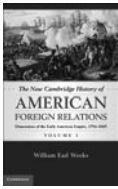
個別の巻でもお求め頂けます。

▼Volume 1: Dimensions of the Early American Empire, 1754-1865, William Earl Weeks (Hardback 9781107005907 USD 50,000)

▼Volume 2: The American Search for Opportunity, 1865-1913, Walter LaFeber (Hardback 9780521767521 USD 50,000)

▼Volume 3: The Globalizing of America, 1913-1945, Akira Iriye (Hardback 9780521763288 USD 50,000)

▼Volume 4: Challenges to American Primacy, 1945 to the Present, Warren I. Cohen (Hardback 9780521763622 USD 50,000)



産業能率大学出版部

▼『グローバル時代の多目的SWOT活用』宮川雅明・伊藤裕一著（A5判・二六二五円）効率的・効果的なSWOTの設計が可能となる四つの画期的ツールを紹介していく。

▼『ザ・ホスピタリティ』中根貢著（A5判・二一〇〇円）ホスピタリティの考え方を正しく捉らえることによって、様々な業種・業界に適用され、組織のマネジメントに貢献ができる。

▼『マーケティング・マネジメント』日沖健著（A5判・二一〇〇円）理論に裏打ちされた実践ノウハウを集めたマーケティングの集大成。

▼『ソーシャル・ホスピタリティ』ソーシャル・ホスピタリティ研究グループ著・徳江順一郎編著（A5判・二一〇〇円）ホスピタリティについて、理論的考察と実務面や実際面とのすり合わせに力を入れて解説した入門書。

▼『新装版 あなたも金持になれる』ジョセフ・マーフィー著・和田次郎訳（四六判・一五七五円）マーフィー博士の理論の中で「富」に関するものを纏めた、金持になるための方法の決定版。

専修大学出版局

▼『東アジアにおける市民社会の形成―人権・平和・共生』内藤光博編（A5判・三二六頁・三九九〇円）

経済発展と相互緊密性が進む東アジア地域では、歴史認識や人権についての問題はありますが、それだけにネットワーク化した新しいかたちでの市民社会の形成が望まれる。本書では日韓の市民社会形成についての考察や、公的医療、経済民主主義の進展、ソーシャルビジネスの役割などの視点から「市民社会論」の理論的検討を行う。さらに東南アジアの政治変動と企業の変化、東アジアの共生社会実現にむけた展望なども論じる。

▼『グローバル企業のリスクマネジメント』高野仁一著（A5判・一七二頁・二二一〇円）

国内企業が多国籍展開（グローバル化）するときのリスクマネジメント問題を、ガバナンス・リスクと、財務情報の質的改善をいかに図り構築・運用していくべきかというような視点から論じていく。また、企業において重要だとされる内部統制に関する決算・財務報告プロセスの評価モデルの構築を試みる。

大正大学出版会

▼『ソーシャルワーク実習』大正大学社会福祉学科編（B5判・二〇〇頁・一七八五円）

「実践なくして理論の検証はできない」。大正七年（一九一八）の社会事業研究室創設以来の基本理念をうけ継ぐ大正大学社会福祉学科がおくる実習テキストの決定版。「現場指向型」実践者の養成に関する九五年間のノウハウを凝縮した一冊である。実習計画書・実習ノート・実習報告書といったパーワーワークのポイント提示、事前学習におけるジェネラリスト・ソーシャルワークといった視点の獲得、逐次おこなわれるスーパービジョンの必要、「場面再構成」を用いた振り返りとしての事後学習の意義等々。専門性と同時に多様性への適応も求められるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）を目指す人にとって必携の書。



玉川大学出版部

▼宮田由紀夫著『アメリカの産学連携と学問的誠実性』（A5判・四四一〇円）

産学連携が活発に行われる一方、大学に金もうけ主義がもたらされ、学問的誠実性が歪められてきている。産学連携の先進国アメリカにおける不正や捏造の実態を考察。不正行為や利益相反を減らしつつ便益を最大にするにはどのような方策・規制が有効かを考える。

▼福本みちよ編著『学校評価システムの展開に関する実証的研究』（A5判・一〇五〇〇円）国内の先導的自治体や諸外国を先行事例に学校評価システムの展開過程を分析。他の自治体や学校でも応用できるよう、システム開発に向けた促進要因と阻害要因を明らかにする。

▼中山剛史・信原幸弘編著『精神医学と哲学の出会い―脳と心の精神病理』（A5判・四二〇〇円）精神医学の進展により、うつ病や双極性障害、統合失調症などの精神疾患の原因やメカニズムが、明らかになりつつある。脳神経生物学、精神療法、臨床哲学、科学哲学、実存哲学の専門家が精神疾患とは何か、心とは何かについて、各領域の立場から論じる。

中央大学出版部

- ▼宇野典明著『新保険論―保険に関する新たな基礎理論の構築』(二八三五円)
二五〇年あまりの間世界中で用いられてきた保険の基礎的な考え方について、現代的立場から問題点を論じ、まったく新たな資産負債最適配分概念の考え方を提案した。さらに、それに基づいて現在の日本の保険制度が有する重要な問題点についても解決策を提示した「新保険」論。
- ▼武智秀之著『政策学講義―決定の合理性』(二九四〇円) 政府の存在理由、公共政策の制度条件、公共政策の合理性、公共空間のあり方を考える。分析枠組みを適用し、事例として産業政策、公共事業、環境保全政策、医療政策、公共介護保険、貧困、社会教育、家族政策など具体的な公共政策の実態を分析する。
- ▼大村雅彦著『比較民事司法研究』(三九九〇円) 日米民事訴訟における証拠収集、集合訴訟(クラスアクション)、司法制度改革に関する論稿を収録。アメリカの民事裁判の深層を知るのに好適。研究者だけでなく、激増する日本の弁護士、国際的業務に携わる企業法務部員、法科大学院生、法学部生にも有益な名著。

東京大学出版会

- ▼『シリーズ福祉社会学』(全四巻、A5判・平均二七二頁・各巻三六七五円)
少子高齢化や個人化、経済の不安定化のなか、福祉が現代社会の中心的な問題となりつつある。「福祉社会学」の名を初めて冠した意欲的なシリーズとして、さまざまなレベルで社会と福祉をみつめる。
- 『1 公共性の福祉社会学 公正な社会とは』(武川正吾編) は、労働・ジェンダーなど公共性にかかわる領域をとりあげ、公正な社会のありかたを探究する。
- 『2 闘争性の福祉社会学 ドラマトウルギーとして』(副田義也編) は貧困問題とそれへの抗議、ターミナルケアなどにおける葛藤など、闘争の理論をもとにさまざまな論争的テーマを扱う。
- 『3 協働性の福祉社会学 個人化社会の連帯』(藤村正之編) は、共生への志向、新たな組織・媒体を通じた行政と民間の連携など、連帯の動きをさぐる。
- 『4 親密性の福祉社会学 ケアが織りなす関係』(庄司洋子編) は、子ども・高齢者・障害者・病者をめぐるケアの現実をとりあげ、福祉社会学における課題に応える。

東京電機大学出版局

- ▼デビッド・アタミー著、河東晴子他訳『電子戦の技術 基礎編』(A5・三八〇頁・四四一〇円)
電子戦(Electronic Warfare)とは、電波・電磁波を活用した軍事活動の総称である。本書は、現代型の戦争において重要かつ基本的な技術として不可欠なレーダー技術と無線通信技術に関する技術解説書である。電子戦技術を現場で使えるものとするための実践的なテキストとして各方面で利用されている。
- ▼御代川貴久夫著『科学技術報道史』(A5・二〇八頁・二四一五円)
科学報道に関する論考をベースに、過去の科学技術報道の抱えていた問題点とこれからの科学技術報道のあり方について論じた一冊。新聞報道をベースに、公害(足尾鉍毒、水俣病)、薬害(サリドマイド事件)、原子力、リスクに関する事象(オゾン層、ダイオキシン、環境ホルモン等)について取り上げる。



法政大学出版局

- ▼J・デリダ／藤本一勇他訳『散種』(一六〇九〇円)「書物外」「プラトンのパルマケイアー」「二重の会」「散種」の四篇が織りなす、書物ならざる書物の到来。デリダの初期代表作、ついに完訳!
- ▼B・ステイグレル／石田英敬監修・西兼志訳『技術と時間3』(四二〇〇円)なぜ「生きづらい」のか? カントの批判哲学とフッサールの現象学を問い直して展開されるハイパー産業社会批判。
- ▼W・キムリツカ／岡崎晴輝他監訳『土着語の政治』(五四六〇円) 混迷するグローバル化状況を前に、リベラリズム、マイノリティの権利、正義、ネイション、民主的シテインシップを問い直す。
- ▼鄭栄桓著『朝鮮独立への隘路』(四二〇〇円) 日本への敗戦後、民族の解放はいつか封じ込められたのか。朝鮮戦争が始まるまでの在日朝鮮人による抵抗、民族運動の実像を膨大な史料から描き出す。
- ▼陣内秀信・高村雅彦編『水都学I』(二二一五〇円) 多種多様で固有の歴史をもつ〈水都〉について、既存の学問領域の垣根を越えて国際比較する壮大なプロジェクト! 創刊号はヴェネツィア特集。

武蔵野大学出版会

- ▼廣瀬裕之著『刻された書と石の記憶』(A5判・二二四頁・二二〇〇円)
武蔵野に建つ三基の石碑を例にとり、書(揮毫)、刻、石の三要素から解析。碑文の解釈、採拓(拓本をとる)とその分析など、「刻された書」から入る書の研究書。緑陰の散策で出会う様々な石碑を見る目が変わる一冊である。
- ▼藤原千賀著『男女共同参画社会と市民』(A5判・二二六頁・二二〇〇円)
男女が共に暮らし、働き、学び、決定する男女共同参画社会の実現への歴史と成熟への展望を語る。
- 男女共同参画の視点による社会システムの構築に向けて、市民のとるべき行動は何か? 教育、就労、政治、家庭などの分野で、性別役割分業の文化から自由になり、主体的な選択と活動ができる社会に変えていくために必要な思想と政策を今改めて考えるための一冊である。



武蔵野美術大学出版局

- ▼『教育通義』高橋陽一著 (A5判、六〇八頁、三一五〇円)
本書は、本学教職課程「教育原理」の教科書として編まれた。ずっしりと重い、三〇章ものヴォリュームに圧倒される読者は多いだろう。しかし、通信教育課程の学生が独学するにあたり、これほど親切で、さらに学習意欲が高まるような教科書が今までにあつただろうか?
美大生に限らず、教員を目指しているすべての学生が無理なく理解できるよう、講義スタイルによる平易な文体は臨場感にあふれ、教員採用選考で問われる教育理念、教育史、教育関係の法令、学校経営など教職教養の基本を一冊で学ぶことができる。重要語句はゴシック体で示し、巻末索引と合わせ、試験対策にも万全!
また、教員になってから、現場で活かせる論理を磨くために、教育基本法、学校教育法を重点的に解説しているのも本書の特徴である。
試験に合格するための「勉強」ではなく、「教育とは何か」を繰り返して自問し、考えつつ進む、最適な教科書といえるだろう。

明星大学出版部

▼『教職実践演習 磨きあい高めあう熱意ある教師に』青木秀雄編（A5判・二七二頁・二一〇〇円）

教育現場の問題は多岐に渡って錯綜している。これから教員になるうとするに当たって、自らの資質能力を教職課程の勉学と教育実習の研鑽によって高めることができたか——厳しい自覚の下に成果を確認し深化させる最終学習のテキスト。



▼『道德教育の指導法』佐々井・岩木・森下著（A5判・一八二頁・一四七〇円）

道德教育の学習は、教壇に立つことを想定して実践的な指導法を身につけることが眼目となる。具体的な指導例と学習案を紹介しながら必要事項を網羅する。

▼『教育原理』佐々井・樋口・廣嶋著（A5判・一九〇頁・一四七〇円）

関東学院大学出版会

▼関東学院大学法学研究所編『リベラル・アーツのすすめ―法学部で学ぶ』（一〇五〇円）法学部での学びを社会の中で活かしていくためには、幅広い視野と大局的判断が必要である。本書は、「法学部」で哲学や歴史学や文学などの法学外の科目を学ぶ必要性について、具体的な科目特性の理解を通して明らかにする。



▼関東学院大学法学研究所編『ようこそ法学の世界へ―法学部で学ぶ』（一〇五〇円）法学部での学びは、各法領域の性質によって一様には語れない。本書は、初学者に向けて法学科目のエッセンスを平易に語りかける。一冊丸ごとで、法学部の学びの世界を概観できる。学習のための法学インデックスとしても活用できる。



東海大学出版会

▼『日本産魚類検索―全種の同定第三版』中坊徹次編（B5判・箱入・全三冊・総二五三〇頁・定価三万六七五〇円）魚類各種の特徴が図によって示された魚類学の最高の座右の書。「絵解きによる検索方式」で日本産魚類全種の正確な名前を知ることができる。第二版刊行（二〇〇〇年）以降に報告された新種、初記録種、学名の再検討、分類体系の改変による情報をもれなく収録し、約三五〇種増の四二―三種類を掲載。同時に各種の地理的分布も詳細に記述されている。第三版から「検索」を第I巻と第II巻、「分類学的付記と文献」を第三巻にまとめ、より使いやすくなった。第一線の魚類学者一九名の執筆者による最新かつ最高レベルの知見を提供する。



名古屋大学出版会

▼『竹島問題とは何か』池内敏著（四八三〇円）歴史分析の光に照らし、学問的に確実に言いうることは何か。日韓双方の史料に精通する著者が、過熱する両国の自己中心的な議論を乗り越え、確かな歴史分析の光に照らして全体像を描き出す。不毛な論争を終わらせ、冷静に問題に向き合うための必読の著作。

▼『科学技術をよく考える―クリティカルシンキング練習帳―』伊勢田哲治・戸田山和久・調麻佐志・村上祐子編（二九四〇円）遺伝子組換え作物、乳がん検診、地震予知―現代社会に必要な科学技術と、どう向き合えばよいか。理系も文系も必須の、自分の頭で考えぬく力を、全く新しいスタイルで身につける。

▼『アニメ・マシーニンググローバル・メディアとしての日本アニメーション』トーマス・ラマルル著／藤木秀朗監訳／大崎晴美訳（六六一五円）アニメはどのようにテクノロジと向き合い、その映像はいかなる思考を促すのか。これらの問いを具体的な作品に即して探究し、従来の研究・批評を刷新する画期的なアニメーション論、待望の邦訳。

三重大学出版会

▼『京都議定書後の環境外交』鄭方婷著（A5判・二八七頁・定価三三二〇円）

■はしがき ■第一章 危うい締約交渉／米国は本当に離脱するか／「京都議定書」への不支持／第一回日米ハイレベル協議／米国の京都議定書離脱 ■第二章 京都議定書批准のための国内調整／政府内調整／政策審議機関／省庁間の対立／川口順子氏の環境庁長官就任 ■第三章 小泉内閣による国内締結／米国離脱の事後処理／小泉首相の登場／議定書締結の国内措置／「新大綱」の数値目標 ■第四章 対米協調への回帰／交渉方式の柔軟な変革／安倍政権―「美しい地球50」／福田政権―「福田ドクリン」 ■第五章 混乱する国際交渉／民主党中期目標の発表／震災、そして原発事故／管政権の新たな課題／京都議定書延長への反対 ■終章「ポスト京都」の課題／「仲介役」という立場 ■あとがき ■I. 参考文献と資料／公式文書／議事資料／略語及び重要用語解説／付録―年表／関連条約／索引

▼吉田茂著『政権変革期の独禁法政策』（A4判・三四〇頁・定価二九四〇円）

京都大学学術出版会

▼安孫子信・出口康夫・松田克進編『デカルトをめぐる論戦』（四四一〇円）近世哲学はデカルトに始まり、以後の哲学はデカルト主義をめぐって戦った論争の歴史と言える。デカルト研究の泰斗小林道夫に対し、近世哲学、科学哲学の専門家それぞれ立場から論争を挑む。

▼高松伸＋ORIGINATORS著『建築のORIGIN―設計を巡る思考』（三〇四五円）建築の数だけ思考がある。建築家・高松伸のもとに集った若き建築家たちが、それぞれの作品を通して、自らの追求する建築の真髄を宣言する。

▼大瀧真俊著『軍馬と農民』（三三三六〇円）馬は特に戦争との結びつきが強く、それゆえ日本の近代化の過程で劇的な変化を遂げた。在来種血統の淘汰、馬産農民の経済的犠牲等を詳細に論じ、「馬」を軸に農業史と軍事史を有機的に結ぶ。

▼樋浦郷子著『神社・学校・植民地―逆機能する朝鮮支配』（三七八〇円）神道国教化の夢を断たれた神職が乗り込んだ朝鮮。しかし「皇国の臣民」を育成しようとするほど現地との乖離は進んでいく。権力が帰結したパラドクス。

大阪経済法科大学出版部

- ▼『未来を発信する八尾 環山楼市民塾二〇二一——平成二十二年度講座記録集』環山楼市民塾運営実行委員会編（A5判・一八五頁・一五七五円）七月刊行予定

目次

ごあいさつ

環山楼市民塾について

第一章 日本経済の現状と展望——今後の

経済財政運営の課題

第二章 レーザーの医療応用

第三章 「地域市民塾の可能性」

第四章 高度情報化社会に生きる——現代

社会を情報の側面から捉え、その意味を考える

第五章 EUと「東アジア共同体」

環山楼市民塾運営実行委員会規約

平成二二年度 環山楼市民塾運営実行

委員会名簿

あとがき

▼『環境と海洋——海から見直す地球環境』細田龍介・山田智貴著（B5判・九九頁・一八九〇円）既刊好評発売中

大阪大学出版会

- ▼菅原由美著『オランダ植民地体制下ジャワにおける宗教運動 写本に見る19世紀インドネシアのイスラーム潮流』（七四〇円）宗教運動を切り口として、イスラーム指導者リファアイ、現地人官吏、オランダ人官吏の資料から多義的に歴史を叙述する。▼姫野完治著『学び続ける教師の養成 成長観の変容とライフヒストリー』（四七二五円）成長観という視点から、レジリエンスを向上させて学び続ける教師を育むための教員養成、教師研究のあり方を提言。▼三好祐輔著『法と紛争解決の実証分析 法と経済学のアプローチ』（六六一五円）真に公平な取引環境の整備のために法と経済学は歩み寄ることが可能か、事例を中心に経済学・統計学的に分析。▼石井正彦・孫榮爽著『マルチメディア・コーパス言語学 テレビ放送の計量的表現行動研究』（三五七〇円）話し言葉の表現行動研究という新たな領域の可能性を展望。▼入谷秀一著『かたちある生 アドルノと批判理論のピオ・グラフィ』（七一四〇円）アドルノの思想を膨大な文献と大胆な人物相関図から論じる。

関西大学出版部

- ▼二階堂善弘著『アジアの民間信仰と文化交渉』（A5判・二二〇〇円）いくつかの中華系の神々は、日本では伽藍神として祀られた。台湾や東南アジアへは、福建系の信仰が伝わった。これらの海を渡った民間信仰の神々について、その発展と衰退を文化交渉の視点から考察する。▼李春喜監訳『ヘンリー・ジェイムズ短編集——オズボーンの復讐』他四編』（四六判・一七八五円）本書に収められた作品は、ヘンリー・ジェイムズが比較的若い頃に発表したものであり、物語を読む楽しさを再発見させてくれる。あまり語られることのなかった彼のストーリー・テラーとしての一面に触れることができる。▼石井康博著『小学校算数科で利用されてきた具体物——子どものインフォーマルな知識および方略に与える影響』（A5判・一六八〇円）小学校算数科では、これまで種々の具体物が子どもに利用されてきた。それらによって、いかに子どもへの知識や方略に影響を与えるのであるか。明治以降の算数科教育を概観し、実践事例の分析を通して検討する。

関西学院大学出版会

- ▼小笠原慶彰著『林市藏の研究―方面委員制度との関わりを中心として』(A5上製・三八六頁・定価六三〇〇円)「方面委員・民生委員の父」としてその運用にかかわった林市藏の生涯とは。
- ▼内山衛次著 関西学院大学研究叢書第一五六編『財産開示の実効性―執行債権者と執行債務者の利益』(A5上製・四九八頁・定価五二五〇円)
- ▼中島暢美著『高機能広汎性発達障害の大学生に対する学内支援』(A5並製・一〇〇頁・定価二一〇〇円)
- ▼武田 丈著『写真が語る赤い家の真実―アクションリサーチによる戦争被害者のエンパワメントとアドボカシー』(A5並製・一三六頁・定価一九九五円)
- ▼京 明著 関西学院大学研究叢書一九編『要支援被疑者(vulnerable suspect)の供述の自由』(A5上製・二六八頁・定価三七八〇円)
- ▼芝野松次郎・小野セレストタ摩耶・平田祐子著『ソーシャルワークとしての子育て支援―コディネーター子育てコンシェルジュのための実践モデル開発』(A5上製・二三六頁・定価三一五〇円)

広島大学出版会

- ▼「人文学へのいざない」広島大学大学院文学研究科教務委員会編(新書版・約三三〇頁・九四五円・改訂版)広島大学大学院文学研究科の教員が文学部で何を研究しているのか、研究のきっかけ、何がおもしろいところなのか等、これから人文学を学びたいと思っている人に向けて作成した一冊。
- ▼「(広島大学オンデマンドシリーズ1)英語の冠詞(増補版)樋口昌幸著(A5版・約二九〇頁・一八九〇円)二〇〇九年同会から出版し、絶版したものの増補版。オンデマンド印刷。英語の歴史的变化から冠詞の本質的機能を究明する学術書。膨大な英語文献コーパスを用いて、種々の文脈ごとに、いつ、どのように、なぜ、冠詞の用法が変化してきたかを徹底的に検証。古い英語との比較を通して現代英語の冠詞の使い方もより深く理解させる。



九州大学出版会

- ▼片岡啓・清水和裕・飯嶋秀治編『九州大学文学部人文学入門2 生と死の探求』(A5判・二二〇〇円)古今東西の生と死を巡る人間の営為と思索を多角的視点から説く。人文学の魅力を語るシリーズ。
- ▼佐藤久美子『九州大学人文学叢書3 小林方言とトルコ語のプロソディー―型アクセント言語の共通点―』(A5判・四八三〇円)一見無関係な二つの言語に共通するアクセントに着目しその実現に関わる仕組みを明らかにする。
- ▼鶴飼信光『九州大学人文学叢書4 背表紙キャサリン・アーンショーイギリス小説における自己と外部』(A5判・三五七〇円)『嵐が丘』『高慢と偏見』など、七編の小説を独自の観点から分析。
- ▼九州大学総合研究博物館監修『九州大学ミュージアムバスプロジェクト』(A4変型・二七三〇円)バスの車内が博物館になる。西鉄バスと大学博物館のコラボで展示の新天地を拓く。写真多数収録。
- ▼レブコ／光藤宏行他訳『学際研究―プロセスと理論―』(B5判・四八三〇円)複数の専門分野の知を結集させ、最適な学問的連携を探るための手引書。

一般社団法人 大学出版部協会賛助会員社名簿

【50音順】2013年6月20日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011	東京都中央区築地5-3-2
亜細亜印刷株式会社	〒380-0804	長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825	東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975	兵庫県尼崎市土坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061	東京都中央区銀座4-7-5
岡本出版発送株式会社	〒353-0001	埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・コミュニケーションズ株式会社	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル7F
城島印刷株式会社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社クイックス	〒102-0073	東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
株式会社桑川印刷	〒112-0012	東京都文京区大塚6-9-7
港北出版印刷株式会社	〒150-0002	東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013	東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226	長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801	東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニツク株式会社	〒105-0004	東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル
株式会社太洋社	〒501-0431	岐阜県本巣郡北方町北方148-1
株式会社尾	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-12-6
宗教法人天然寺	〒204-0021	東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京弘報社	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061	東京都中央区銀座8-11-11
東光整版印刷株式会社	〒135-0006	東京都江東区常盤2-12-15
株式会社トーヨー企画	〒602-0923	京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-3-7
萩原印刷株式会社	〒112-0004	東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 19F
株式会社平文社	〒170-0005	東京都豊島区南大塚2-35-7
株式会社堀内印刷所	〒335-0034	埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051	東京都千代田区一ツ橋1-1-1
誠製本株式会社	〒174-0042	東京都板橋区東坂下1-19-5
株式会社遊文舎	〒532-0012	大阪府大阪市淀川区本川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒104-8243	東京都中央区銀座6-17-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042	東京都千代田区神田東松下町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031	東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

●広告掲載出版社一覧 (掲載順)

岩波書店	〒101-8002	東京都千代田区一ツ橋2-5-5
御茶の水書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-30-20
吉川弘文館	〒113-0033	東京都文京区本郷7-2-8
みすず書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-32-21
藤原書店	〒162-0041	東京都新宿区早稲田鶴巻町523
芙蓉書房出版	〒113-0033	東京都文京区本郷3-3-13
上智大学出版	〒102-8554	東京都千代田区紀尾井町7-1
筑波大学出版会	〒305-8577	茨城県つくば市天王台1-1-1
東京学芸大学出版会	〒184-8501	東京都小金井市貫井北町4-1-1
立教大学出版会	〒171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1

東日本大震災と東京学芸大学

東京学芸大学編 A5判 288頁 1785円(税込)

大学そして附属学校の危機対応の記録、教職員と学生、児童生徒の行動、そして子どもたちに活かすべき教育、リスク社会のなかでの学びや、50余名の執筆者が記述。大震災からの復興をこれからの教育につなげ、息の長い取り組みをしてゆくため、東京学芸大学がその使命を世に問う。

「もじゃペー」に〈しつけ〉を学ぶ

——日常の「文明化」という悩みごと

山名淳著 四六判 192頁 1260円(税込)

ドイツで150年以上にわたって愛されてきた絵本『もじゃもじゃペーター』。もともと残酷な話だった「もじゃペー」は、さまざまな形に増殖して読み継がれてきた。その変化から、近代化としつけの関係を読み解く。

江戸の教育力 ——近代日本の知的基盤

大石学著 四六判 160頁 1260円(税込)

意外や意外、江戸時代は武士も農民も町人も上との別なく教育熱が高かった。当時の外国人も驚いたその教育力の広まりは、実は明治以降の急速な近代化を支えたものでもあった。



TEL 042-329-7797 FAX 042-329-7798
HP <http://www.u-gakugei.ac.jp/upress>

エリアス・カネッティ伝記

スヴェン・ハヌシエク [著] [上下巻]

北島玲子・黒田晴之・穴戸節太郎・須藤温子・古矢晋一 [訳] 各巻3,675円(税込)

『群集と権力』などを残した作家エリアス・カネッティ。本格的伝記の完全翻訳を初公開。

フランス・オペラの魅惑

台芸術論のための覚え書き

澤田 肇 [著] 2,000円(税込)

代表的なフランスのオペラ20作品を、作曲家の生涯や文化的背景とともに紹介。魅力的なオペラの世界に誘う一冊。

世界の中のアフリカ

国家建設の歩みと国際社会

吉川 元・矢澤達宏 [共編] 1,575円(税込)

国家建設の歩みを振り返り、紛争解決や他民族社会と国家などの課題や国際社会との関わりについて考察し、アフリカの未来を展望する。

〈発行〉Sophia University Press 上智大学出版
<http://www.sophia.ac.jp>

〈発売・注文〉〒196-8575東京都江東区新木場1-18-11
ぎょうせい TEL:0120-953-431 FAX:0120-953-495
<http://gyosei.jp>

立教大学出版会

<http://www.rikkyo.ac.jp/u-press/>

身体感覚の歴史的
変容を読み解く

山田夏樹著

戦後日本を代表する漫画家・作家の作品を取り上げ、ロボット、サイborgなどの人工的身体の表象分析を通じて、進展しているテクノロジー環境のなかで身体感覚がどのように変容しているのかを読解。

近現代文学 戦後マンガにおける人工的身体の表象分析
ロボットとへ日本 A5版上製 三三四頁 四四一〇円

ジェンダー研究の現在
性という多面体 A5版上製 三三六頁 二八二五円
新田啓子編
性的マイノリティの醜態を題とし、性か、なぜ、どのように、どのような状況で、ある人生の選択に用いたかを徹底的に探求した、ジェンダー研究の最新かつ多様な九本の研究成果を盛り込む。

(表示価格は税込)

〒171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1

発売*有斐閣

TEL03(3265)6811 FAX03(3262)8035

新刊

アメリカ型 福祉国家の形成

佐藤千登勢著

A5版上製・324頁・1,500円
ISBN978-4-904074-27-5

1935年社会保障法とニューディール

筑波大学出版会 —— 筑波大学の知の発信 ——

筑波大学は、人文科学、社会科学、シラナス、自然科学、工学、農学、教育、体育、医療、環境、情報メディア、芸術といった幅広い学問分野を擁し、先端的で独自の研究を展開して、世界有数の知の集積地である筑波研究学園都市の中核を担っています。筑波大学出版会はこの豊富な筑波大学の知を社会発信の中心として、我が国の学術・文化の振興・発展に貢献していくことを目的としています。

茨城県つくば市天王台 1-1-1

<http://www.press.tsukuba.ac.jp/>

発売＝丸善出版 ☎03(3512)3256 (価格税込)

一般社団法人
大学出版部協会
加盟出版部一覧

北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL: 011-747-2308 FAX: 011-736-8605

弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1
弘前大学附属図書館内
TEL: 0172-39-3168 FAX: 0172-39-3171

東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL: 022-214-2777 FAX: 022-214-2778

流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL: 0297-60-1167 FAX: 0297-60-1165

聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL: 048-725-9801 FAX: 048-725-0324

聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL: 047-365-1111 FAX: 047-363-1401

麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL: 04-7173-3320 FAX: 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL: 03-3451-3168 FAX: 03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局
〒140-0002 品川区東品川1-32-5
TEL: 03-5479-7295 FAX: 03-5479-8277

産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サピエタワー9階
TEL: 03-6266-2400 FAX: 03-3211-1400

専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-8
TEL: 03-3263-4230 FAX: 03-3263-4288

大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1
TEL: 03-3918-7311 FAX: 03-5394-3038

玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL: 042-739-8935 FAX: 042-739-8940

中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354

東京大学出版会
〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学構内
TEL: 03-3811-8814 FAX: 03-3812-6958

東京電機大学出版局
〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL: 03-5280-3433 FAX: 03-5280-3563

東京農業大学出版会
〒156-8502 世田谷区糎丘1-1-1
TEL: 03-5477-2666 FAX: 03-5477-2747

法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北4-3-24 京ニビル5階
TEL: 03-5214-5540 FAX: 03-5214-5542

武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内
TEL: 042-468-3003 FAX: 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL: 0422-23-0810 FAX: 0422-22-8309

明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL: 042-591-9979 FAX: 042-593-0192

関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL: 045-786-5906 FAX: 045-786-2932

東海大学出版会
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL: 0463-79-3921 FAX: 0463-69-5087

名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL: 052-781-5027 FAX: 052-781-0697

三重大学出版会
〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学附属病院5階
TEL: 059-232-1356 FAX: 059-232-1356

京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL: 075-761-6182 FAX: 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市薬音寺6-10
TEL: 072-941-9129 FAX: 072-941-9979

大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL: 06-6877-1614 FAX: 06-6877-1617

関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-0238 FAX: 06-6389-5162

関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL: 0798-53-7002 FAX: 0798-53-9592

広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
TEL: 082-424-6226 FAX: 082-424-6211

九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内
TEL: 092-641-0515 FAX: 092-641-0172

NESE
RSITY
SSES

95
3-7
MER

大学出版95号(2013年夏)
2013年7月1日発行
頒価100円(千共)

発行所:
一般社団法人大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131
〒102-0073
東京都千代田区九段北
1丁目14番13号
メゾン寛六403号室
TEL: 03-3511-2091
E-MAIL: mail@ajup-net.com
URL: http://www.ajup-net.com/

使用書体:
筑紫明朝 Pro, M, D
Sabon Next, Display
使用紙:
紀州の色上質 特厚口 コスモス

表紙デザイン:
白井敬尚形成事務所